



Title	佐藤氏ノ注意ニ就テ
Author(s)	渡邊, 義勝
Citation	全国紙上数学談話会. 1935, 41, p. 1-3
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/74053">https://doi.org/10.18910/74053</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 131. 佐藤氏ノ注意ニ就テ

渡邊 義 勝 (横浜高工)

先般ノ數物大會ヲ私ノ提出シタ積分方程式  
即チ (A)  $\int_{x_1}^{x_2} \lambda(x, t) \varphi(t, u) dt = \varphi(x, u),$

茲ニ  $0 \leq a \leq u \leq x_0 < x_1 < x_2 < x < +\infty$

但シ  $\varphi(x, u) = \frac{k}{x^k} (x-u)^{k-1} \quad (k > 0)$

等トシテ未知函數  $\lambda(x, t)$  ヲ求ムトイフ問題ハ  $k=1$  ナル  
場合ノ外ハ成程佐藤氏 (本紙第 39 号 124) ノ指摘サレタ様  
ニ解不能ナルモノデシタ。尤モ佐藤氏が  $x_1 \leq x \leq x_2$  デナ  
イカラ上式ハ Fredholm 型トハイハレナイトサレタ点ハ  
少シ當テナイノデシテ (A) ノ中ノ  $x$  ハ全然 parameter ト  
シテ姑ク ignore シテモ宜シイ。核ハ實ニ積分符号下ニ  
アル  $\varphi(t, u)$  デアツテ  $\lambda(x, t)$  デハアリマセヌ。尚茲ニ  
 $a \leq u \leq x_0$  デアツテ普通ノヤウニ  $x_1 \leq u \leq x_2$  デハナイ  
トイフコトハ私モ一度不覺ニ左様思ツタコトデシタガ或ル席  
上 (上ノ積分方程式トハ中サナイヲ御尋ネシタトキニ) 掛谷  
先生カラ夫レハ一次変換ニヨリ (即チ、ココデハ

$$v = \frac{(x_0 - u)x_1 + (u - a)x_2}{x_0 - a}$$

トオケバ  $x_1 \leq v \leq x_2$  トナル) parameter  $u$  ヲ  $v$   
ニ換ヘサヘスレバ宜イデハナイカト Hint ヲ頂イタコトデ  
シタ。

サテ私自身ノ不能ノ証明ハ次ノ通りデス。

假定 = ヨリ (A) ノ左辺 = テ

$$\varphi(x, u) = \frac{k}{t} \left(1 - \frac{u}{t}\right)^{k-1} = \frac{k}{t} \sum_{m=0}^{\infty} \binom{k-1}{m} \left(\frac{-u}{t}\right)^m$$

ハ一様収斂トナルカラ積分ト集和トノ順序ヲ換ヘテモ宜イ。  
 同様 = (A) ノ右辺モ  $u/x$  ノ冪級数 = 展開ナシ得。両辺 = 於  
 ケル  $u$  ノ同次冪ノ係数ヲ比較スレバ (且ツ公約數ヲ去レ  
 ば)

$$\int_{x_1}^{x_2} \lambda(x, t) \frac{dt}{t^{m+1}} = \frac{1}{x^{m+1}} \quad (m=0, 1, 2, \dots)$$

デナケレバナラヌ。然ル = 上式ハ  $m$  ノ 或ニツノ値 = 對シテ  
 スラ既 = 聯立不可能ナル。其ノ故ハ上式ヲ少シ書キ換フ  
 レバ

$$(1) \int_{x_1}^{x_2} \frac{x^{m+1}}{t^{m+1}} \lambda(x, t) dt = 1$$

トナリ, 又ツノ  $m$  ノ 値ノ 一ツ少イ場合ヲ少シ書キカヘルト

$$(2) \int_{x_1}^{x_2} \frac{x^{m+1}}{t^{m+1}} \lambda(x, t) t dt = x$$

トナル。然ル = (1) ハ明カ =

$$y = \frac{x^{m+1}}{t^{m+1}} \lambda(x, t)$$

ナル曲線ト  $t$  軸ト  $t = x_1$ ,  $t = x_2$  トノ間 = アル部分ノ  
 面積ヲ表ハシ、(2) ハ其ノ面積ノ重心ノ  $t$ -座標ヲ表ハス。

故=後者ハ勿論  $x_1$  ト  $x_2$  トノ間=アルベク決シテ  $x_1 > x_2 > x_1$   
 等デハアリ得ナイ。従ツテ (1) ト (2) トハ聯立不可能ニシ  
 テ一方正シクバ他ハ不合理タルベク、結局 (A) ハ  $\varphi(x, u)$   
 ノ展開が唯ダ二項ダケトナル場合、即チ  $k=2$  ナル場合ニ  
 スラ既=不可能タル方程式デアアル。況ンヤ  $k$  が任意正実数  
 ナル如キ場合ハ尚更不可能デアアル。

茲=佐藤氏ノ與ヘラレタ注意=對シテ深謝シ、又吟味不足  
 ニシテ不束ナル問題ヲ提出シタエト=ツキ大方諸氏=御詫シ  
 併セテ私自身ノ不明=ツキ慚愧=堪ヘマセン。

ダガ Lösche 氏 (*Math. Zeitschr.*, 37 (1933), S. 117)  
 ハ数列ノ場合=就イテ上ノト類似ノ關係カラ未知項  $\lambda_p^{(n)}$  7  
 求メ得テキルノデアツテ、之レニツケテモ代数解析ト積分解  
 析トノ間=ハ越ユベカラザル溝渠ガアルヌウ=私=ハ痛感サ  
 レマス。 — (五月三日) —